

地域再生計画書本体新旧対照表

旧	新
<p>地域再生計画</p> <p>1～4 (略)</p> <p>5. 目標を達成するために行う事業</p> <p>(5-1)全体の概要</p> <p>・当地域の主要道である「町道岩淵線」と本路線に連絡する「林道七力線」を一体的に整備することにより、集落から町中心部への通行危険箇所が解消され、都市と農村交流の円滑化及び就業環境、生活環境が改善されるとともに、森林施業への通行の安全が確保されることにより、農林産物の物流円滑化にもつながる。</p> <p>また、森林へのアクセスが軽減されることにより、遅れている森林整備の推進がはかられ、森林の適切な管理が実施され公的機能の強化につながる。</p> <p>・実施中の森林居住環境整備事業(林道整備)及び森林環境保全整備事業(同)により、当地区東部と中央部を連絡し、他町村との広域的な林産業ネットワークを形成させ上記事業と一体的に道路網を拡充する。</p> <p>・都市農村交流促進施設を拠点にし、地元団体や学校等との共催イベントを行い観光レクリエーション人口の流入を図る。</p> <p>支援措置に係る必要な手続き</p> <p>・町道岩淵線 (道路法8条1項に規定する市村道に昭和62年3月14日に認定)</p> <p>・林道七力線 (森林法に基づく紀中地域森林計画(平成13年4月1日樹立)に記載)</p> <p>(5-2)法第四章の特別措置を適用して行う事業</p>	<p>地域再生計画</p> <p>1～4 (略)</p> <p>目標を達成するために行う事業</p> <p>(5-1)全体の概要</p> <p>・当地域の主要道である「町道岩淵線」と本路線に連絡する「林道七力線」並びに「<u>林道小鶴谷線</u>」を一体的に整備することにより、集落から町中心部への通行危険箇所が解消され、都市と農村交流の円滑化及び就業環境、生活環境が改善されるとともに、森林施業への通行の安全が確保されることにより、農林産物の物流円滑化にもつながる。</p> <p>また、森林へのアクセスが軽減されることにより、遅れている森林整備の推進がはかられ、森林の適切な管理が実施され公的機能の強化につながる。</p> <p>・実施中の森林居住環境整備事業(林道整備) (削除)により、当地区東部と中央部を連絡し、他町村との広域的な林産業ネットワークを形成させ上記事業と一体的に道路網を拡充する。</p> <p>・都市農村交流促進施設を拠点にし、地元団体や学校等との共催イベントを行い観光レクリエーション人口の流入を図る。</p> <p>(略)</p> <p>(5-2)法第四章の特別措置を適用して行う事業</p>

道整備交付金を活用する事業

道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続きを完了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・町道岩淵線（道路法8条1項に規定する市町村道に昭和62年3月14日に認定）
- ・林道七力線（森林法に基づく紀中地域森林計画(平成13年4月1日樹立)に記載）
- ・林道小鶴谷線(森林法に基づく紀中地域森林計画(平成13年4月1日樹立)に記載)

[施設の種類（事業区域） 実施主体]

[施設の種類（事業区域） 実施主体]

(略)

(略)

[事業期間]

[事業期間]

・町道(平成17年度～21年度)、林道(平成17年度～20年度)

・町道(平成17年度～21年度)、林道(平成17年度～20年度)、林道(平成18年度～19年度)、

[整備量及び事業費]

[整備量及び事業費]

・町道 1,100メートル、林道3,522メートル
・総事業費 428,000千円
町道 300,000千円(うち交付金150,000千円)
林道 128,000千円(うち交付金 38,400千円)

・町道 1,100メートル、林道3,822メートル
・総事業費 503,000千円
町道 300,000千円(うち交付金150,000千円)
林道 203,000千円(うち交付金 72,150千円)

(5-3)その他の事業

(5-3)その他の事業

上記再生支援計画路線とともに地区東部で実施中の林道整備2路線の事業推進により他町村との林産業連絡網を形成させ、産業基盤を充実することにより農林産業の活性化を図る。

また、既存都市農村交流促進施設「滝原温泉ほたるの湯」、「青少年の家」を拠点とする地元団体や学校との共催イベント(桜祭り、鮎の放流、ほたるの飼育放流)を実施し流入観光人口の増加を図る。

上記再生支援計画路線とともに地区東部で実施中の林道整備1路線の事業推進により他町村との林産業連絡網を形成させ、産業基盤を充実することにより農林産業の活性化を図る。

また、既存都市農村交流促進施設「滝原温泉ほたるの湯」、「青少年の家」を拠点とする地元団体や学校との共催イベント(桜祭り、鮎の放流、ほたるの飼育放流)を実施し流入観光人口の増加を図る。